

## 「効率がすべてに優先か」

米 谷 豊 彦

### 1. はじめに（基調報告にかえて）

〔資料1：北海道新聞 2016. 8. 1 朝刊〕

『2020年度から実施される次期学習指導要領で、コンピューターを使って論理的な思考力を養う「プログラミング教育」が小学校で必修化される見通した。人工知能（AI）など情報技術の開発が、加速する中で注目される分野だ。』

プログラミング教育とは《プログラミング技術を学ぶのではなく、コンピューターを人間の意図したとおりに動かす体験をさせながら、論理的な思考力や問題解決能力を身につけてもらうのが狙い》とされ、総務省のプログラミング教育実施モデル校（江別市）では、情報系大学と連携し、希望する児童にパソコンでゲームの制作やロボットの操作を学ぶ講座を開き、《教員が単独で指導するのは難しい。次年度以降も大学側の協力を得ながら、子供たちの想像力を育みたい（校長）》とする。

また、日高管内の町教委では、全小中学校にタブレット型端末を配置し、《まずはタブレット型端末を使う教育の学力効果を検証し、各校の意見を聞きながら準備を進めていく（同町教委）》とされる。

〔資料2：北海道新聞 2016. 8. 2 朝刊〕

『小中高校どう変わる ～次期学習指導要領案』

中学校《保健体育：20年東京五輪・パラリンピックの成果を次世代に引き継ぐため、知識に関する領域で、五輪・パラの意義や価値などの内容を改善する。》、《部活動：学校単独での運営体制から、一定規模での地域単位での運営を支える体制を構築》また、《休養日や活動時間を適切に設定することや、教員の負担軽減の観点から地域の協力や各種団体との連携など、運営上の工夫を求める》とされる。

以上を整理すると、コンピューターを意図した通りに動かす体験から論理的な思考や問題解決能力を身につけさせること。そして20年東京の成果をその意義や価値とどう結びつけるかが問われ、部活動の維持に関わる諸対策については「いまさら・・・」の感といえる。

〔五感体育〕

さて、言うまでもなく、我々は「五感」により外界の状態を認識している。

資料で提示した今後10～20年の「第4次産業革命」を見通した時、五感から生み出される体育・スポーツの実践（行う・観る）を求めることも一考ではないか。そこには、スポー

ツ科学とスポーツ実践の断層を埋めたと世界的に評されるマイネルの研究成果を連鎖させることが可能といえる。

以下に、五感と《運動経過の質》について簡略化する。

《運動覚やその他の感覚、特に視覚、聴覚、平衡覚、触覚の形成は新しい運動の習得に優れた前提を作り、また反対に、運動系の活動はこれらの感覚の形成に大いに役立つのである。》

視覚～順次性の認識 《運動伝達》

聴覚～協調・均斉 《運動の調和・リズム》

嗅覚～他者・作戦 《運動の先取り》

味覚～向上の快感・達成感 《運動の正確さ》

触覚～感性 《運動の弾性》

そして、誰のための教材なのか、その技術の本質を見定めた系統《流動》と指導方法を検証し続けることが肝要と考える。

またそれは、本合研で検証してきた“なかま・できる・わかる” “系統の可変性・深化” “運動文化・教材価値” とリンクするものといえよう。

(亀井 武 2003) なかまと共に『できる・わかる』のこだわって

(亀井 武 2004) 『わかること、できること』にこだわる教育実践を

(大瀬 隆 2005) 『系統』は深化する 一指導用語によって—

(大瀬 隆 2006) 系統は可變的に検証され、深化する

(大瀬 隆 2008) 「系統」は誰のためのものか

(大瀬 隆 2009) 「系統」・・・その「落とし穴と転移」

(大瀬 隆 2011) 「運動文化を問い直す」

(中島義夫 2012) 「何を、どう教えていくのか」

(中島義夫 2013) 体育の学力を考える

(中島義夫 2014) 教材の価値を見据える

\*運動覚：運動覚分析器を通して獲得される、自分の運動の空間関係、時間関係、緊張関係の知覚。《クルト・マイネル スポーツ運動学 大修館 1981》

(札幌学院大学 大瀬 隆)

## 2. 実践レポートに学ぶ

### 実践レポート①

# 歌声マットで学び合おう ～3年生マット運動～

中標津東小学校 中島 義夫

### 1. 目標

- ・側転を中心とした技を組み合わせて（連続技）リズムよく、つながりを意識して演技することができる。
- ・腰が高く上がった側転ができる。 (技能)
- ・技や連続技のポイントを考えて見つけることができる。 (思考)
- ・グループで協力して楽しく学習することができる。 (関心態度)

### 2. 児童とグループ編成

1組男子22名 女子18名 計 40名

2組男子22名 女子19名 計 41名

合計 81名

○各組5グループ、計10グループにしマットを設置する。

#### ○児童の実態から

2年生で3学級だったのが2学級になり、やや集中に欠ける場面が見られる。また、ふざけや悪戯に便乗したりする子も増えたように感じる。ただ4月当初よりは落ち着きや学習に対する姿勢も向上してきている。

マット運動に関しては低学年から一貫した流れを学んできているので、全体的に上手である。今年は指導者が担任ではないので、教材の提示方法や授業構成を工夫しながら自分たちで課題を追求していく「自主・主体学習」的な単元構成にしたい。

指示され叱られながら「やらされる」ばかりではなく、自ら取り組んでいく姿を期待したい。(少しでも良いので・・・)

そのために、リーダーを中心にしたグループ学習を構築させたい。自ら教材と向き合う楽しさも知らせていきたい。そのための適切なアドバイスを先生方をお願いする。

教材に関しては、2年間を見据え中学年としての第1段階ととらえた計画にしてみた。今年学んだ上で、来年度はステップアップして繋げてもらいたい。

### 3. 教材について

- ①側転を中心に据え、側転を含んだ連続技を通して身体表現し、マット運動の楽しさを感じさせたい。
- ②単一技の習得はもちろん大事だが、できないからといって取り出しては練習しない。連続技の練習などを通して獲得させていきたい。

③技から次の技へ移る「つなぎ」を意識させたい。次の技を意識した動きや身体の使い方を学ばせていきたい。

④技カードを持たせ、自ら進んで技の獲得を目指させたい。シールやコメントなど体育カードも有効に活用していきたい。

#### 4. 全体計画

	時	主なねらい	内 容
オリエンテーション	1	感覚練習や学習の進め方がわかる。マットの出し入れを覚える。歌声マットのモデルを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ねこちゃん体操</li> <li>• 感覚練習</li> <li>• 体育ノート記入</li> <li>• マット準備</li> </ul>
前転のコツを見つけよう	1	前転での重心移動を体験する。課題追求学習の方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前転がうまくできるための方法をグループで見つける。</li> </ul>
側転習得発展	2	リズムよく側転ができる。コツを考え、見つけることができる。手型足型・ゴムひもを使って考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 側転のコツを見つける</li> <li>• 手型足型を使って記録し考察する。</li> <li>• ゴムひもで腰、脚を伸ばす</li> </ul>
連続技の学習 歌声マットモデル	2	モデル連続技の練習を通して、技のつなぎ方を考えたりスピードコントロールをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前半と後半に分けてモデル技のつなぎをどのようにしたらうまくできるか考える。</li> <li>後転部分の学習。</li> </ul>
連続技の通し	2	技のつながりがスムーズになるように教え合いながら練習できる。一部、技を変えて演技することができる。(発展)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• モデル連続技の通し練習と一部修正。</li> </ul>
発表会	1	歌声連続技を発表することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 連続技の発表</li> </ul>

#### 4. 感覚練習の内容（毎時間続ける）

①ねこちゃん体操（別紙）

②ゆりかご～後転（背中をまるめ、グ～ラン。手の平にしっかりとるように）

③うさぎの足うち（指先を見ながら腰を高く上げる）

④川跳び、側転。（手―手―足―足。肩に体重がのるように）

⑤首振り歩き、首回し歩き

## 5. 授業の展開

### 1時間目 オリエンテーション

◆準備・・・生活科バック・筆記用具（毎時）

①マット準備～放射状に8グループ分を。

＊ロングマットも必要かも。

②準備体操（いつもの）

③学習の進め方について

- ・体育カードの使い方
  - ・マットのしきかた
  - ・自分たちでコツを発見しながら進めていくこと
  - ・話し合いや記録をつけること
  - ・モデル歌声マットの紹介
- その他、練習中の約束や注意点

④感覚練習（前述）の方法・別紙参照

ポイントに気をつけて行うようにする。

＊昨年までもやってきているので、あまり時間をかけずに行う。

＊時間があれば、技カードについても触れて、練習する。

The diagram illustrates a sequence of 10 acrobatic poses, each with a name and a corresponding illustration of a person performing the pose. The poses are arranged in two rows, connected by arrows indicating a sequence. A large bracket on the right side of the diagram indicates that the sequence is a continuous loop.

**Row 1:**

- ポーズ: 「たんぼぼ」
- 水平バランス: 「ひいらいた」
- 前転: 「まっきいろに」
- 前まわり: 「ひいらいた」
- V字バランス: 「ひいらいた」

**Row 2:**

- 側転: 「ひいらいた」
- ふり向いて: 「にっこりしながら」
- 後転: 「はなびらと」
- 前屈: 「はなびらと」

**Musical Score:**

たんぼぼ ひらいた まっきいろに ひらいた はなびらと はなびらと にっこりながらひらいた

●こばやしけいこ/作詞 ●丸山亜季/作曲

2時間目 前転のコツをみつける

① マット準備 ② 準備体操 ③ 感覚練習 は毎時間同じ。

先生方へ

④ 前転を上手にやるコツをみつけよう。＊ 体育カード2

うまく見つけた班を  
教えてください。  
(毎時同様)

- ・グループごとに考えて、まとめる。(記入しながら)
- ・意見交換

○目はおへその方を見る。 頭の後ろが着く感じ。(首を入れる、あごをひく)

○手はまっすぐに、指を開いてつき支える。(脇をしめる)

○おしりは、高く上げる。(床を蹴らないで、ゆっくり体重移動、ぎりぎり我慢)

○背中丸める。ネコちゃん体操の「怒ったポーズ」

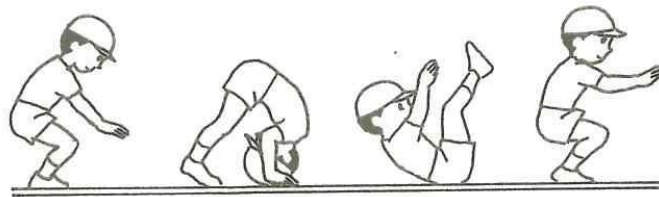
○腿を胸につけて回る。

○立つときに、手を前に出す。(胸を前に出す感じ)

まとめ

- ・おしりを高くし、重心を前にもっていく。あごをひくと背中が丸くなる。(ネコ体操)  
＊運動には科学的な合理性があることを知らせ、これからもそこを見つけることを確認。
- ⑤まとめを意識して練習してみる。
- ・2回続けて回ると、うまくできる事が多い。
- ⑥時間があれば、後転もやってみる。
- ・後転はスピードと、脇の締めが大事。

月 日 マット運動学習カード



1. 前転を試みよう
2. 「どのようにするとやりやすいかな」  
(目はどこを見る？ 手はどうつく？ おしりをどうする？)
3. 班の考え
4. まとめ
5. 感想

### ③・4時間目 側転のコツをみつけよう

①マット準備 ②準備体操 ③感覚練習

④側転のコツをみつける 「うまくいかないところはどこ？」

(全) 腰や脚が上がらない、両足で着地、など・・・

「どうしたらうまくできる？」

・グループごとに考えて、まとめる。(記入しながら)

・意見交換 (腰が)

○目は、手と手の間を見る。 あごをあげる(頭が起きる、背中が反る。ネコ体ハッ)

\*見られない子には先着手の中指に色テープを巻いて見させる。

○手―手―足―足のリズムでまわる。

○腰を曲げない、脚ものばす。

○最初に着く手は足のそばに。

○最後は、突き放すように手で押す感じ。

⑤手型足型・ゴムひもを使ってみよう。

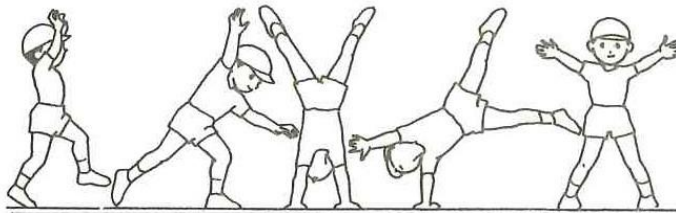
クラスごとに交代して使う。

・記録して、見つけたことを班でまとめ発表する。

○踏切の足先方向がまっすぐに。手や足がまっすぐに着いていると上手に回れる。

○手や足の間隔がほぼ同じくらいが良い。等

#### 月 日 マット学習カード (側転②)



1. きれいな側転をしよう。

2. 「\*上手な子の側転と、まだ上手でない子の側転との違いを手型・足型を使って見つけよう」

3. 班の考え

4. まとめ

\*上手な子の側転は、一直線上に手、足を着く。踏み切り足は進行方向に向いている。

5. 感想

## 5時間目 歌声マット前半の連続技

- ① マット準備 ② 準備体操 ③ 感覚練習

④前転ー前回りーV字バランス（前半部分）「まっきいろにひいらいた」を上手に演技するためのコツをたくさん見つけよう。

「V字バランスでうまく止まるためには？」

- ・試してみて、できないところを班練習でコツを見つめ合う。記録・発表

○前回りは、ゆっくりとする。（スピードの変化）・・・手を少し遠くに着くと良い。

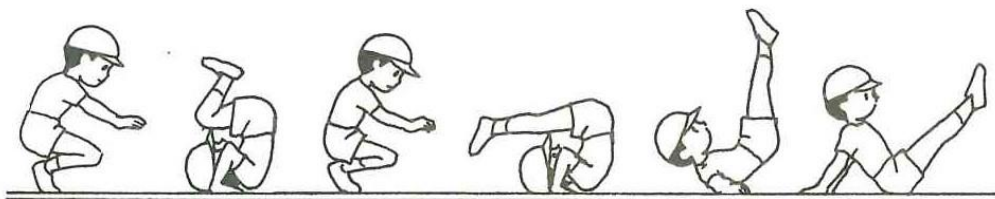
○前回りは、腿と胸を離していく。

○V字バランスでは、背中を反らすので、あごを少しずつ上げていく。首も立てる。

まとめ

- ・次の技を予測して、スピードや姿勢を変えていくことが大切。

月 日 マット学習カード



1. 歌声マット 「まっきいろにひいらいた」の部分を上手に演技しよう。

2. 「\*どのようにしたらV字バランスでうまく止まれるだろう」

3. 班の考え

4. まとめ

\* V字バランスで止まるには、前転の次の前まわりをゆっくりおこなう。そのため、手を少し遠くに着く。前まわりの後半は足先を見るようにする。

5. 感想



## 6時間目 歌声マット後半の連続技

①マット準備 ②準備体操 ③感覚練習

④後転―側転（後半部分）「はなびらとはなびらがにっこりしながらひいらいた」を上手に演技するためのコツをたくさん見つけよう。

### ・後転の練習

ゆりかごから後転の練習をし、しっかり手で押せるように。できない子は高い位置からの後転でコツをつかませたい。\*教え合いや補助を協力させる。

・前屈から後転へ。（できない子は前屈せずにしゃがんだ位置からでも可）

\*後転にこだわらず、つなぎ方を意識させたい。

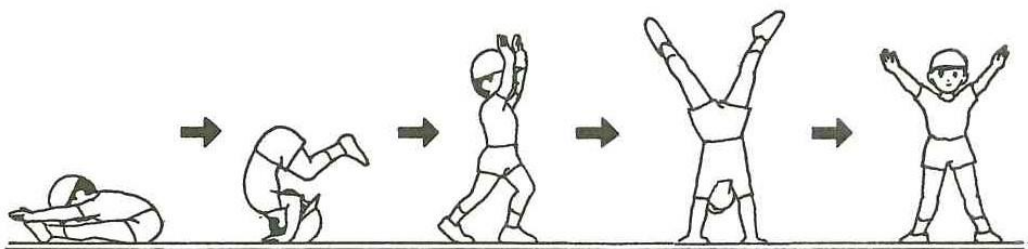
・後転から側転になめらかにつなげるにはどうしたらよいか、追求。

○向きが変わることを意識させる。

○ジャンプ・足クロス・片足開いて着地し向きを変える など。考えさせる。

\*どれでも良いが、次の側転がやりやすい視点も教えておく。

月 日 マット運動学習カード



1. 「はなびらと はなびらと にっこりしながら ひいらいた」をきれいに演技しよう。

2. 「\*後転から側転へスムーズにつなげるには、どのようにしたらよいだろう」

3. 班の考え

4. まとめ

\*ジャンプ，足交差，片足伸ばしなどの方法で向きを変え，側転する。

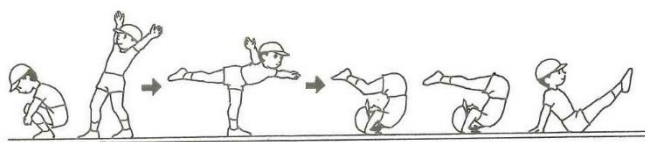
5. 感想

## 7・8時間目 歌声マット通し練習と創作（修正）

①マット準備 ②準備体操 ③感覚練習

④歌声マットを通して練習し、うまくできない部分など、どんなところに気をつけて演技すれば良いかを考え、教え合う。

・最初に前半部分（水平バランスから前転部分）をスムーズにするコツを考える。



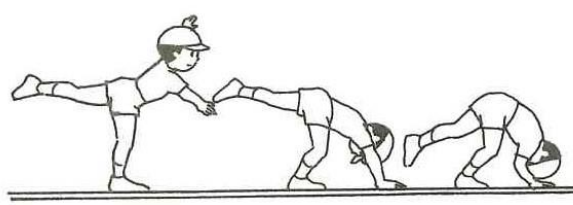
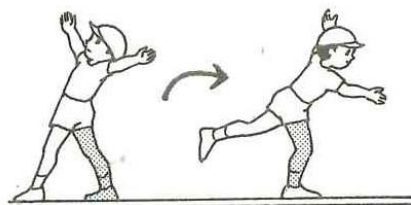
○前転練習を思い出させる。手の着く位置やあご（首の）使い方、腿の離れとスピード

アでは、180度の向き変えなので、「後転→側転」のつなぎを思い出させる。

イでは、腰の位置の高いまま前転に入るとよい。

ア

イ



個々によって部分的に違って来るであろう。班で見合い・教え合いできるようにしたい。また、体育ノートを通して客観的に自己演技を分析できるように。（ちょっとでも）

全体的には・・・

◎一つ一つの技を正確に丁寧に演技する。（美しさ） \* 手足先までしっかり伸ばす

◎なめらかなつなぎをする。（予測）

◎リズムに合わせる。（スピードコントロール）

\*はじめから終わりまで一つの作品であることを意識させたい。

⑤技の変更を考える。自分の得意の（苦手からなど）技に変えても良い。（発展創作）

・リズムが変わらないように。

・時間が足りないので、1つか2つの変更にとどめる。

・自分の作品作りという意識を高めていく。

（例）「前屈→後転」を「肩倒立→前回り立ち」

「最初のポーズからバランス」を「Bブリッジからの立ち上がり」

「側転」を「ロンダート」など

\*ヒントを与えてあげてください。

## 9時間目 発表会

\*審査しながら行う。お互いの良さを見つけ合う。

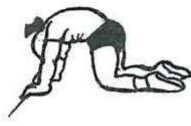
ネコちゃん体操

①



ね〜ちゃんが おこった  
ひざをつき、体操の準備をする。

②



フーッ！  
おなかを見て、背中を丸める。  
(体のしめ)

③



ハッ！  
上を見て、背中を反らす。(か  
からだの反らし)

④



ね〜ちゃんのあくび  
いち、に、さん、し  
腰を後ろにグッと引いて肩を入  
れ、止める。

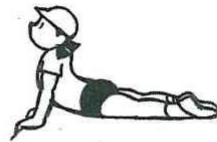
(10 回繰り返す)

⑤



ニャ〜オン  
頭、胸、腹をマットにするよう  
にして前に出る。(腕支持・頭  
の入れ起こし)

⑥



ピーン  
腹をつけ、上を見てからだを反  
らす。(からだの反らし・柔軟性)

⑦



かめさんになって  
うつぶせの状態です首をもつ。  
(リラックス)

⑧



ピーン  
からだを反らす。(からだの反  
らし・バランス・柔軟性)

(10 回繰り返す)

⑨



ゲーラン  
上、下を交互に見て、顎角を変え、前後にゆらす。  
(あふり・からだの反らし・頭の入れ起こし・柔軟性)

(10 回繰り返す)

⑩



お〜しまい

⑪



ぐるり  
うつぶせから仰向けになる。

⑫



ブ〜リッジ いち、に、さん、し  
ブリッジ姿勢をとり、4 秒間保つ。  
(腕支持・からだの反らし・柔軟性)



⑬



あ〜しあげ いち、に、さん、し お〜しまい  
ブリッジ姿勢で足を上げ、4 秒間保つ。

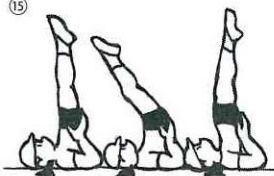


⑭



アンテナさんのようい  
足腰を持ち上げ、足先がマットにつ  
くように曲げる。(バランス・柔軟性)

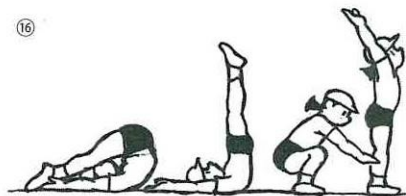
⑮



ピーン ポキ ピーン  
足先を垂直に上げる。尻をゆるめ、くの字  
形にからだを曲げる。尻をしめ、少し反り  
気味に足を上げる。(からだのしめ・から  
だの反らし・はね動作・柔軟性)

(10 回繰り返す)

⑯



お〜〜し まいっ！ ピシッ  
足先をマットにつけ、手を伸ばして体角を開くようにして振  
り出して立つ。(はね・からだの反らし・からだのしめ)

資料2

ゆりかご	初歩の前転	初歩の後転
<p>①前にゆれる ②後ろにゆれる ★ひじと手首を最大限に曲げ、指を大きく開いて反らせ、両手の親指が耳にさわるようにする。</p>	<p>①くまさん歩きの姿勢 ②おしりを高く上げたまま、手に足を近づけて顎を入れておへそを見る ③すると自然にゆっくり回れる</p>	<p>①後ろへ足を伸ばす ②足を横へずらし首をぬく ③ひざを曲げて腰を後ろへ ★手で押す。</p>

うさぎの足うち

①用意 ②腰を上げる ③足をうつつ ④もとの姿勢にもどる [つまずき例]

★両足でふみきる ★前方を見る

★頭がなかに入ると体がまるまり、前にたおれてしまう

うさぎの川とび

★手に体重をのせる ★あごを出して指を見る

※はじめは、しゃがんだ姿勢から入ってよい。慣れてきたらだんだん高い位置から入れるようにする。  
※体の向きがわからない子がいる。最後まで手から目をはなさず、手を早く突き放すと正しい体の向きがわかる。

★体の向きがわからない ★手から目をはなさず、早めに手を突き放す

川とび側転



# めざせ！マット名人



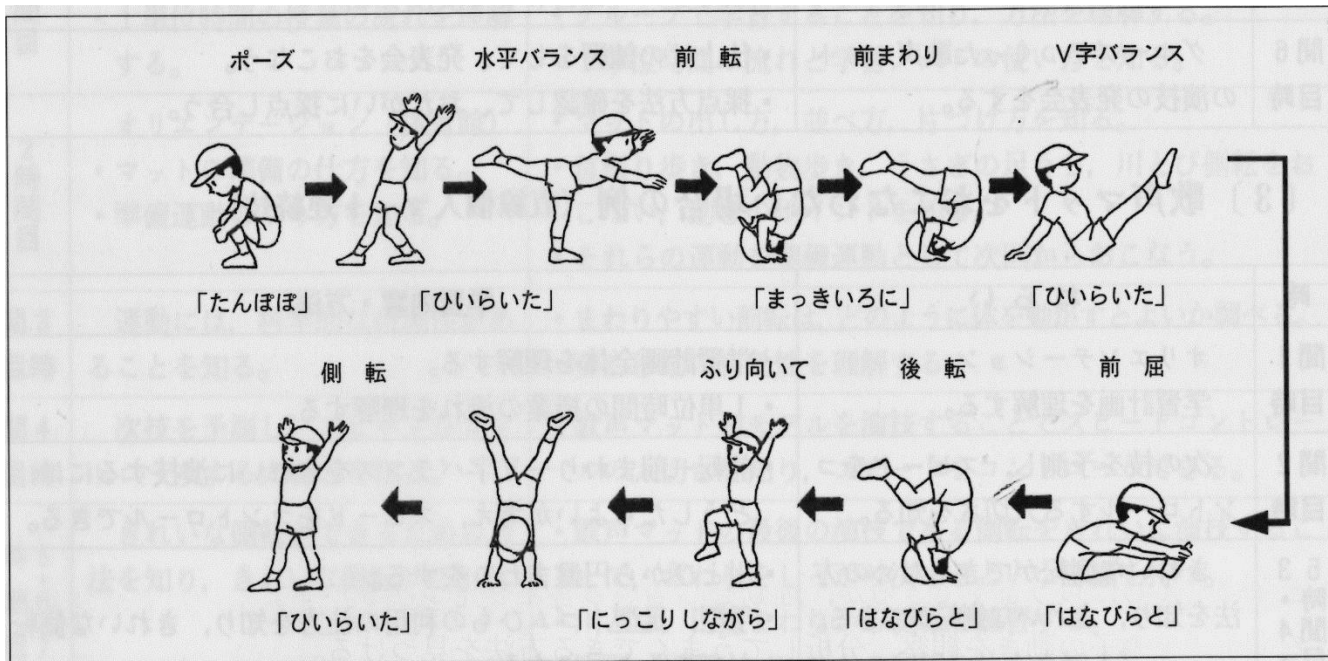
3年 組

名前

☆「歌声マット」をなめらかに、美しく演技できるようになろう。

☆「わざ」のコツをたくさん見つけて、マット名人になろう！

## 歌声マット



たんぼぼ ひらいた ●こばやしけいこ / 作詞 ●丸山亜季 / 作曲

たんぼぼ ひらいた まっきいろに ひらいた はなびらと はなびらと につこりしながらひらいた

マットカード

# とくいわざをふやそう

名前 \_\_\_\_\_

★できたわざや、少しできたわざに○をつけよう。

★あたらしいわざをみつけて書こう。

ロールわざ	少し できた	できた	スプリングわざ	少し できた	できた	バランス・ポーズ	少し できた	できた
くまさん歩き			うさぎとび			Yポーズ		
あざらし			足うち			かた足バランス		
よこまわり			川とび			ひざつきバランス		
ゆりかご			そくてん			ひこうきバランス		
前転			グリコそくてん			V字バランス		
後転			ロンダート			かたとうりつ		
			そくてん前ひねり			カエルとうりつ		
			かた手そくてん			3点とうりつ		
						かべとうりつ		
						ブリッジ		
						ブリッジ足上げ		
						Bブリッジ		
						Cブリッジ		

## つなぎのわざ

ジャンプ			ジャンプ半回てん			ジャンプ1回てん		
足クロス			かた足のぼし					

# 教科体育でつきたい力

別海町立西春別小学校 米谷豊彦

## 1、鉄棒ブームと研究会

毎年、西春別小学校では10月中旬に学芸会が終わると鉄棒ブームが沸き起こる。体育の鉄棒授業に合わせて体育館に室内鉄棒を設置する。鉄棒は4台。下にはエバーマットと普通のマットを2～3枚重ねて敷く。子ども達は歓声を上げて鉄棒に群がり、鉄棒は体育の学習と言うより遊びの一部となる。

同じ時期、いろいろな学校から研究会の案内が届く。各学校の研修テーマには「主体的な学び」「確かな学力」「学力の向上」などの言葉が並び、そして「言語活動」「アクティブラーニング」「ICT教育」などと続く。公開研は、そのほとんどが国語と算数の授業ばかりだ。職員室で話題になった。「それぞれの学校の子どもの状況はどうなっているのだろう。」「本当に国語や算数の研究ばかりでいいのか?」「学力向上の学力とはなんだ?」「すべての子ども達が幸せになる学力なのか?」

ちなみに本校の研修主題は「思いや考えを伝え合い、よりよい人間関係を築ける子どもの育成」副題は「各教科等における主体的・協働的な学びを通して」となっている。教科を決めるのではなく、今、目の前にいる子ども達を育てるための取り組みこそ大事。したがって教科は決めるべきではないと教職員の考えが一致した。



## 2、どのように指導していくのか 【器械運動だと】

器械運動には、器械運動でしか味わうことのできない独特の身体表現の楽しさがある。器械運動に限らずどの運動にもその運動でしか味わうことのできない独特の楽しさ、それを私たちは「**運動の特質**」と言っている。その楽しさを中心に、運動の基礎となる技術（**基礎技術**）は何なのか、そしてそれはどのような順序で発展していく（**技の系統性**）のか、ということを考えながら授業を作っている。



《器械運動の特質と基礎技術》

	独特のおもしろさ（特質）	基礎技術
マット運動	マット上で、回転とバランスを身体で表現し、単一技で終わるのではなく、自分のできる技を連続して演技すること（連続技の創作）。	ジャンプを含む側転（ホップ側転）
鉄棒運動	1本の鉄棒を支点にして、その空間で振りと回転を自由に表現すること。連続技の創作とその演技。	スイングを含む足かけ回転
跳び箱運動	助走、踏み切り、着手から手のつきはなし、着地までの空間バランスのスリルとダイナミックさを追求し表現すること。	腕立て横とびこし ひねり横とびこし はねとび

3、体育における学力のとらえ方

体育は教科である。だから学力をつけ、人格の完成に迫らなければならない。では体育の学力とは何か。私は次のように考えている。

<b>わかる</b>	（思考・判断）
技術習得の方法や法則性を見つけることや、認識すること	
<b>できる</b>	（技能）
その運動独自の技術を主体的な学習によって獲得し、表現すること	
<b>ともに学び合う</b>	（態度、思考・判断）
グループ学習の教え合いを通して、集団自治や人とのかかわり方を身につけること	



ネコちゃん体操



体育ノート「先生あのね」に記入してふりかえり



1年生 M さんの  
こうもりふりおり





### 3. まとめにかえて

実践レポート①「歌声マットで学び合おう ～3年生マット運動～」では中島氏より、大規模校での器械運動の実践が紹介された。中島氏は担任ではないが、小学校3年生の2学級合同体育（81名）のMTとして指導に当たっている。人数に見合った用具（マット）が確保されないなか、マットを放射状に敷いて1点の場所からすべてのグループの動きを把握したり、絵や図を活用し、視覚に訴えた教材の提示方法や授業構成を工夫している。そして何よりも自分たちで課題を追求していく「自主・主体学習」的な授業を構築していった。

中島氏は、本単元の「目標」の中に「技や連続技のポイントを考えて見つけることができる（思考）」ことをあげている。教師主導で技術のポイントを指導することも必要なときもある。しかし中島実践は、子ども達が学習の主体者として「できる」ためのコツや方法を見つけていく授業づくりをめざしているのである。時には時間がかかることもあるかもしれない。しかし「できる」ための効率がすべてではなく、その過程にある「わかる」ことや「仲間とともに学び合う」ことが体育の大事な学力であると考えます。

レポート②「教科体育でつきたい力」（米谷実践）では、器械運動を例に「その運動でしか味わうことのできない独特の楽しさ（特質）」、「その楽しさを中心に、運動の基礎となる技術（基礎技術）」、そしてそれは「どのような順序で発展していくのか（技の系統性）」を考えて授業をつくることの必要性を述べた。

また、討議の中では、グループの話し合い活動を成立させるためには、その材料となるデータの取り方を学習し、子ども達が科学的で客観的なものの見方を養いながら仲間と関わっていく力を身につけることが大事であることも確認された。

体育は子ども達にどんな力をつける教科なのか。中島実践は、子ども達への関わりだけではなく、ともに指導にあったSTの教師集団へも大事なことを投げかけたのではないかと。今回、最後の基調報告をいただき、長年北海道の体育教育の理論的、実践的支柱となってきた大瀬、そして中島両氏が現場を退くことは大変な痛手となるが、何らかの形で今後も体育教育に関わってほしいと願っている。またこの「保健・体育分科会」が果たしていく役割を考えたとき、参加者及びレポートの組織は次年度以降の大きな課題となっている。これまでのように素晴らしい実践を全道に発信していく場として維持・発展させていきたい。

（別海町立西春別小学校）